

第7回名桜大学高大接続勉強会報告書

2022年8月16日(月)に名桜大学環太平洋地域文化研究所研修室において、リベラルアーツ機構主催の第7回名桜大学高大接続勉強会を開催いたしました。本会の目的は、北部の人材育成をめざして高校教育の現状や大学が目指す教育改革の方向性について、高等学校と大学が意見交換を行い、高大接続の実質化に向けた具体的な方策を共に考えることです。今回は、「名桜大学高大接続勉強会の目指すもの」をテーマに情報交換を行いました。参加者は、本学から、副学長、学群長、学部長、リベラルアーツ機構長、学習支援センター長等11人、高等学校からは5校から5人の進路指導部主任等、計16人でした。

佐久本功達リベラルアーツ機構長の進行により、まず「名桜大学高大接続勉強会の趣旨説明」を行い、続いて「2018年度入学生の卒業までの4年間の学び」について、本学からの情報提供後意見交換を行いました。

2018年度入学生の北部出身学生とその他の学生との比較において、「①休学、退学、留年の割合は、北部地区が若干高いもののほとんど差はないこと。②入学時の基礎学力は有意に低い結果であったこと。③4年間の成績(GPA)の比較は、僅かに北部出身学生の方が高かったこと。④就職率の差はなかったこと。⑤卒業率は若干低かったものの有意差はなかった。」等が明らかになったという報告でした。

入学時の基礎力不足が心配されましたが、4年間の学びの結果は、進級や成績、就職率においても大きな差はないことが明らかになりました。そのことについて本学教員からは、入学後は県内・県外の多様な学習履歴や生活環境も異なる学生間の学び合いを通して、良い刺激を受け努力してきたと推察できるのではないかという意見が出されました。4年間で卒業できた学生たちの諦めず努力をした結果だといえると思います。しかし、高等学校からは、卒業後の進路に関して早期離職の実態把握も含めて企業と連携し、詳細な追跡調査を希望するという意見が出されました。

今回始めて実施した本調査は、入学時から卒業までの教育の成果が可視化された貴重な調査であり、継続して実施することや、今回の調査結果において進級及び卒業ができなかった学生のその後の休学・退学等の理由も含めた進退状況及び就職先の分析も行う必要があると考えています。

◆データの結果から議論していきたい3つの論点

論点1：入学者選抜は成功しているか？

- ・北部地域7校に限ると高大接続は成功しているだろうか。
例えば「推薦入試(北部枠)」入学者(48名)の学科別の状況をみると次の通りとなった。
学科別に異なる入学者選抜の課題もあるのだろうか？

論点2：高校教育は大学教育の成果に影響しないのか？

- ・当初、入学時の学力は、入学後の学習や卒業時の進路にも影響すると予想した。しかし、入学時の基礎学力は、休学・退学、成績、進路決定と明確に関連しなかった。なぜだろうか。

論点3：その他

- ・北部地域の学生の学修成果や進路状況を評価するにあたって、データはこれで十分だろうか。
学生たちは新しい社会(例、少子高齢化、Society 5.0)に対応できる学力を身に付けられただろうか。
大学は、その学力をどうやって評価できるのだろうか。

今回は2018年度入学生の卒業までのデータを収集・分析いたしました。各部署にある休学、退学等の学籍情報や学習成績、進路先情報など多岐にわたる資料の収集と接合に時間を要しましたが、様々な視点から分析が可能となる基調なデータとなりました。本学の高大接続研究会では、送り出した生徒の4年間の学びを高校側と共有する必要があると考え、それらのデータを提示しましたが、その内容を理解するまでには時間を要したため、残念ながら今回は当初掲げた論点に沿っての議論は十分にはできませんでした。結果についての詳細な分析はこれからですが、本学の今後の教育改革に繋がる要点を見つけることができるのではないかと考えているところです。

最後に、2021年度に実施された入学前特別講座の結果について報告を行いました。受講生にとって、「高校までの学習を復習すること」「大学で専攻する分野の基礎力を身に付けること」「入学までの間、学習習慣を維持すること」は、難しい目標であり、かつ評価が難しいとされていました。しかし、2021年度実施した入学前特別講座の自己評価において設定したすべての目標が、講座開始時より講座終了時の評価が有意に高く、4日間の講座の教育効果が顕著であったことを紹介しました。そのため、今後も入学前特別講座を継続して実施することを報告いたしました。

第8回高大接続勉強会は、11月28日（月）の実施予定です。

<事後アンケートから>

1. 今後も継続して提供してほしい情報

- 入学から卒業までの在籍状況（休学、退学、除籍等）、卒業時の就職状況、新入生学力調査の結果
- ワーキングホリデーや留学等に関する情報、その他

2. 今後の勉強会の進め方について

- 参加者の「勉強会の目的(何をしたいのか)」を明確にした方が有意義な時間になると考えます。また、語句の定義(例えば「学力とは・・・を意味します」みたいな共有認識)も最初で共有できたら議論が建設的になると考えます。

3. 学習指導や進路指導で困っていることや負担に感じていること

- 課題もあろうが、しっかりとサポートいただき育てて頂いていることに感謝しています。生徒が進路活動でしっかり頑張っていることが、丁寧に評価されているなら、生徒の成長にもつながるし、負担感を感じません。

4. 今回の勉強会についてのご意見・感想等をお書きください。

- 今後は、視点を拡大し、大学が育てたい人材像と高校側でそのために身につけておきたい資質や能力、体験などを洗い出し、それを大学と高校が連携・協同して育むための取り組みについてアイデアを出して、例えば北部市町村の行政も巻き込みながらの実践を構想できたら、大学の存在意義がさらに高まり、高校との連携、地域創生、小中の学力問題解消にもアプローチできないでしょうか？

5. 大学へのご意見・要望等がございましたらお書きください。

- ①今後、推薦枠を広げるのかどうかの意向、②多様な背景を持った生徒を受け入れる入試制度
- ③観点別評価の取り扱い、④総合問題および共通テストを課す推薦入試導入の影響
- ⑤名桜大学付属中学校の設置は可能ですか、⑥高大接続と中高連携は、意味合いが違いますか？

ある地区の中高連携では、高校の先生が地域の中学校の授業を教えたり参観したりして、高校での授業における生徒のつまづきを発見し高校の授業で活かしていました。高校までの勉強と大学の勉強（学問）は違いますが、従来のような出前講座ではなく、大学の先生が実際に高校の教科書を使って高校生に高校で授業を行い、高校生の現実を考えてもらう（把握してもらう）という意味では、効果がありそうな気がします。それを持ち帰ることで、大学での講義の方法・内容に参考になるんじゃないのかな？・・・と考えます（本当の意味での高大接続だと思います）。



第7回名桜大学高大接続勉強会の様子 22.08.16